

< 戦中の県民生活 >

昭和6年（1931）9月に勃発した満州事変以後、国内では国防思想の普及が強く叫ばれ軍事意識が高揚し、いわゆる非常時から戦時へと社会の様相が急速に変化していきました。

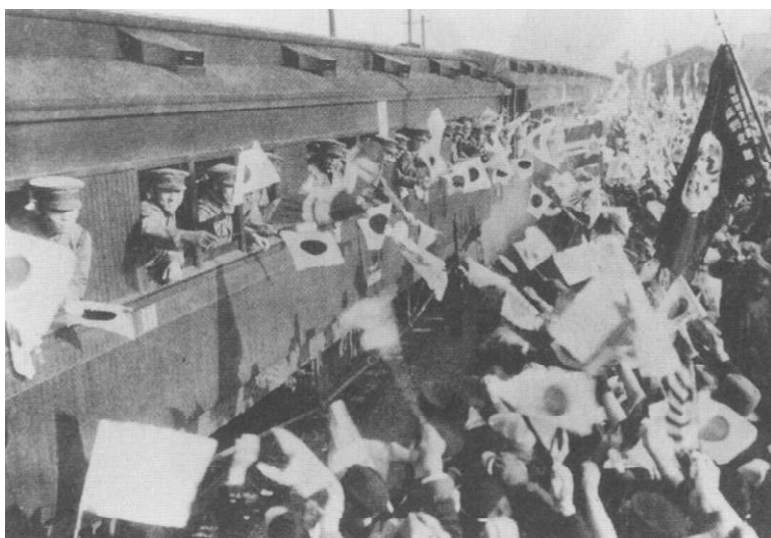
国民は、このような戦争熱の高まりの中で、その後の日中戦争、さらには太平洋戦争と、15年間に及ぶ激動の時代を経験することになります。

※ 写真は、「戦後50周年記念 援護の歩み」（岡山県）から抜粋。禁転載。



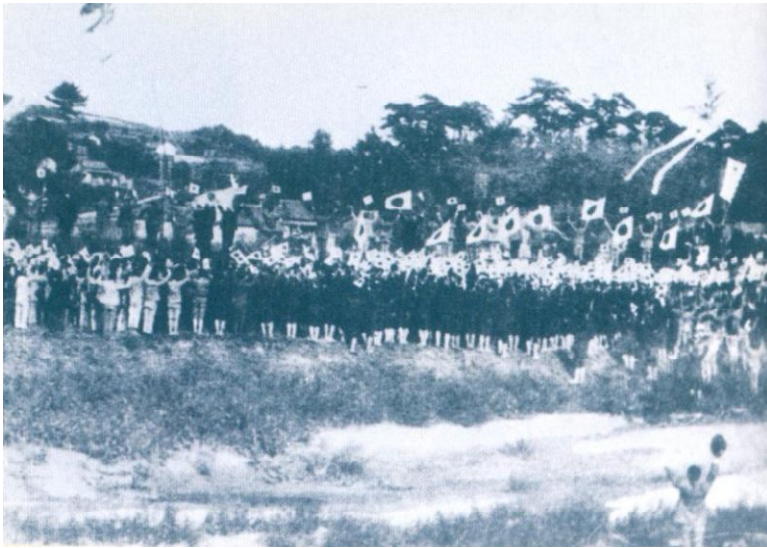
満州事変が勃発し、出征のため兵営に集まる郷土部隊の将兵

（昭和6年・場所不明）



満州事変が勃発し、岡山駅を出発する兵士を日の丸振って見送る家族

（昭和6年・岡山市）



戦勝の報に、国旗を手に万歳を斉唱する旧制中学生や住民

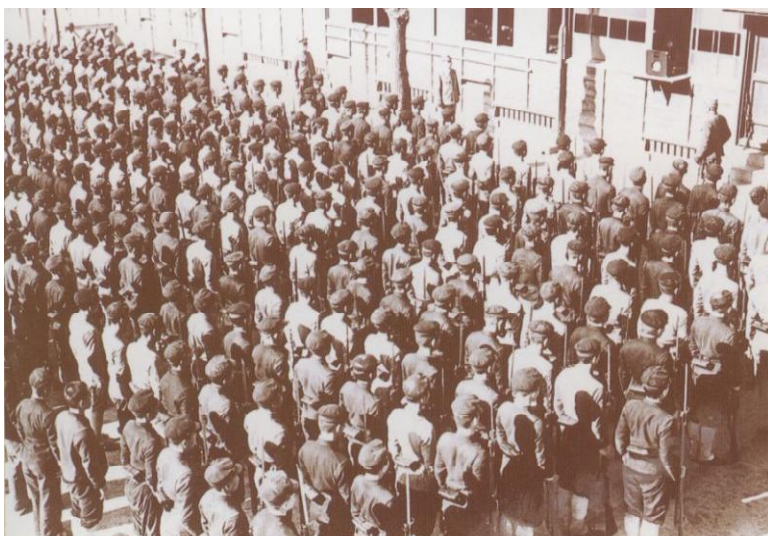
(昭和13年・浅口市)

(旧・金光町)



北満州へ移駐するため兵営を出る岡山歩兵第10連隊の将兵(部隊は後に、南方へ配備され壊滅)

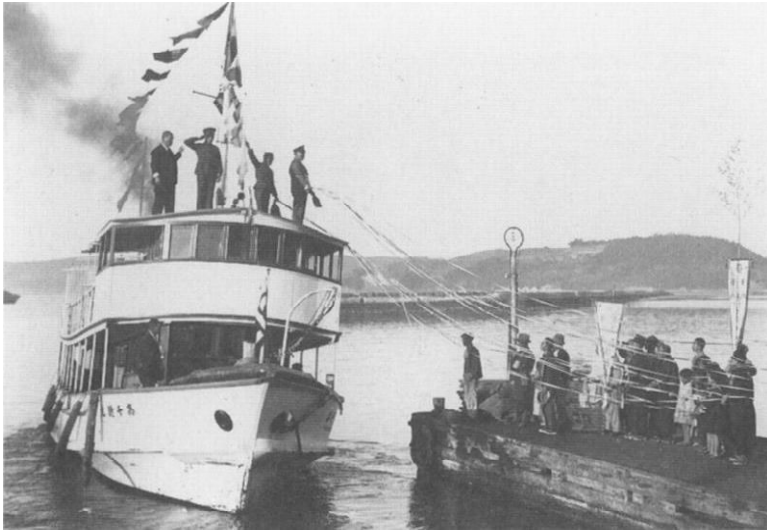
(昭和15年8月・場所不明)



米英への宣戦布告のラジオ放送を、整列して聞く金光学園中学校(現・金光学園高校)の生徒

(旧・金光町)

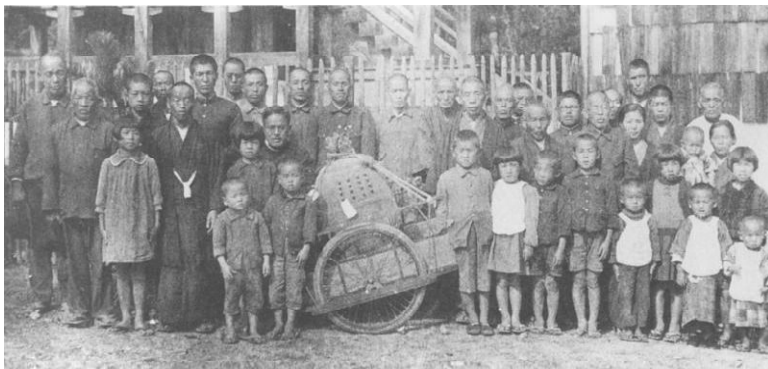
(昭和16年12月・浅口市)



出征のため、家族に見送られて船で故郷を発つ青年
(昭和17年・瀬戸内市)
(旧・牛窓町)



戦争に行く夫や息子の無事を祈り、街頭で「千人針」の一縫いを募る女性たち
(年代不明・津山市)



吉備郡阿曾村水巻神社の釣鐘供出。児童まで集まって送り出した。
(昭和17年10月・総社市)



食料増産のため全国で開墾
が行われ、学校の運動場や道
路まで芋や豆が植えられた。
(昭和18年頃・高梁市)



大阪陸軍被服支廠倉敷出張
所で軍服を縫う女学生
(昭和19年頃・倉敷市)



食事の前に手を合わせてお
祈りする神戸市からの疎開児
童
(昭和19年頃・井原市)
(旧・芳井町)